

令和元年6月20日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03496

研究課題名(和文) ロシアおよび在外古儀式派教徒の歴史・民族誌的研究

研究課題名(英文) Historical and Ethnographical Studies on the Old Believers in Russia and overseas

研究代表者

中澤 敦夫 (Nakazawa, Atsuo)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：90242388

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の大きな成果は、歴史、民族誌、文化(文学・芸術)の分野におけるこれまでのロシア古儀式派研究を、共同研究として組織化し(海外共同調査、学会の共同参加・発表など)、その成果を共有する場を創る(国内研究会や国際会議の組織など)ことができたことである。

あわせて、海外研究者の協力を得ながら共同調査を行い、学会・会議の場で一流の海外研究者と交流を持つことによって、参加者は自身の研究を深化させるだけでなく、研究のための国際的なネットワークを広げることができた。さらに、研究期間の最後に、ロシア古儀式派に関する一般向け概説書を出版することによって、研究成果の普及にも一定の貢献をすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、単独では難しい海外フィールド調査、資料調査を共同研究のかたちで組織することによって、古儀式派の民族誌・歴史分野の諸課題において、新しい知見を得ることができたことである。同時に、研究集会などにおいてそれらの成果を伝え、共有し合うことによって、分野横断的な古儀式派研究の体制を築くことができたことも意義がある。

また、本研究の社会的意義は、毎年の研究集会や研究会の開催、概説書の出版、ロシアにおける概説書のプレゼンテーションの開催などによって、古儀式派のテーマを社会に普及させることができたことである。

研究成果の概要(英文)： The major achievements of this project are organizing researchers of Russian Old-Believers studies in Japan in the fields of history, ethnography, culture (literature and art) in joint research program and making them possible to participate conferences and symposiums together. We can create a place to share results (such as the organization of domestic research meetings and international conferences).

At the same time, by conducting joint research with overseas researchers and having exchanges with top researchers at academic conferences and symposiums, participants of our group not only deepened their own research but also expanded the international network of research. Furthermore, at the end of the research period, we could publish a book on Russian Old-believers "Russian Old Ritualists: History and Culture" for general readers. This is a certain research results and contribution to the future study.

研究分野：人文学、ロシア教会史、ロシア古文献学

キーワード：キリスト教史 ロシア教会史 古儀式派 宗教的少数派 移住・移民

1. 研究開始当初の背景

ロシアの古儀式派の研究は、ソ連国家の崩壊によって宗教活動の制限が少なくなり、古儀式派の各教派が復活するのと歩調をあわせるようにして、この四半世紀の間に急速な発展を見せるようになった。それまでは、宗教研究の制限があったソ連邦以外の国において主に古儀式派研究が行われていたが、1990年代の後半から、ロシアおよびウクライナ、バルト諸国など旧ソ連の各地で研究が飛躍的に活性化し、現存するコミュニティのフィールド調査、資料の収集・保管、雑誌・図書の刊行、学術会議の開催などが積極的に進められるようになり、国際学会も活発に開催されるようになった。

古儀式派は、宗教迫害から逃れるために移動と越境を繰り返したため、ロシア国外の教徒が多い。彼らは周囲の社会から独立した宗教的コミュニティを形成し、ロシアの伝統文化を保持してきた。そのため、古儀式派の研究もまた、コミュニティを抱えるウクライナ、ポーランド、ルーマニア、リトアニア、ラトヴィア、アメリカ合衆国など、国外で盛んに進められているのが特徴であり、研究の国際的ネットワークも徐々に形成されるようになった。

このような新しい研究状況を背景にして、日本の研究者は、ロシア東方地域や東アジア地域でフィールド調査を含む古儀式派の歴史・民族誌の研究を積み重ね、2012年には国内外の研究者の交流・協力の場として、また海外に向けて情報を発信するための組織として、「古儀式派研究会」を設立した。この研究会は、2019年まで8回にわたって毎年研究集会を開催して研究者たちの協力体制の確立に努めてきた（詳細は「古儀式派研究会」ホームページ <http://yaosis.jp/> を参照）。

本研究は、以上のような従来の研究を、共同研究として有機的に結びあわせ発展させることを企図したものである。また、研究のネットワーク化がすすむ世界的な動向のなかで、東アジア地域における研究の拠点となることも期している。

2. 研究の目的

17世紀半ばに、ロシア正教会による典礼改革を受け入れず、主流の教会組織から離反した「古儀式派教徒」(Old Believers; старообрядцы)は、ロシア内外でマイノリティとしての共同体を形成し、現代にいたるまで独自で豊かな宗教文化を創り上げてきた。本研究では、これまで古儀式派の歴史・民族誌・文化の研究に取り組んできた研究者たちが、「在外古儀式派の歴史と文化」を課題として、ロシア東方地域およびロシア国外に展開した古儀式派コミュニティを対象に、現地調査を含む共同研究を行う。さらに、「ロシア古儀式派の文化史」の課題のもとに、ロシア社会における古儀式派の文化的影響の諸相を解明する。このような共同作業を積み重ねることで、古儀式派研究の国際的なネットワークの、東アジアにおける確かな研究拠点を構築することを視野に入れている。同時に、ロシア古儀式派に関する知識の普及にも努める。

3. 研究の方法

本研究では、各参加者がこれまで進めてきた個別研究の深化をはかると同時に、毎年、古儀式派教徒の移住地であるロシア東方（ザバイカル地方、トィヴァ共和国）、東アジア（旧満洲地方）、オーストラリアにおいて共同のフィールド調査を行い、古儀式派コミュニティの歴史と民族誌の研究を行った。それらの成果は毎年開催した研究集会、研究会で集約し、研究者の間で共有した。また、国際会議にも参加して、日本における研究の成果を海外に発信した。

研究期間の後半には、古儀式派に関する概説書の編集に着手し、1年半をかけて概説書『ロシア正教古儀式派の歴史と文化』（明石書店、2019年）を出版することができた。

4. 研究成果

(1) 個別・共同調査

平成28年度の共同研究調査としては、2016年8月31日～9月9日に旧満洲調査（ハルビン、ジャムストド）を行い、伊賀上菜穂、三浦清美、阪本秀昭、塚田力、生田智子が参加した。満洲における古儀式派教徒の元の居住地を探索するとともに、日本人とロシア人、中国人の交流・接触の跡を訪ねた。これまで数度の調査を重ねる中で、現地中国社会の変貌ぶりが激しいことを確認した。

個別研究調査としては、中澤敦夫は2016年9月に、また宮崎衣澄は17年3月に、それぞれモスクワを訪問し、古儀式派教会の調査を行い、聖職者、協会関係者、信徒たちから聞き取りを行った。下斗米伸夫は、2017年3月にロシアのイワノボに滞在し、古儀式派とソビエトの関係、スターリン時代の労働紛争と古儀式派の関係についての史料調査を行った。豊川浩一は17年3月にモスクワのロシア古文書館での手稿史料調査、および国立図書館、歴史図書館での文献資料調査を行なった。望月哲男は2016年6月にグラナダ大学（スペイン）で、長辺『カラムーゾフの兄弟』に現れる教会裁判論に関する研究発表を行った。伊賀上菜穂は、2017年3月にハバロフスク地方国立文書館で旧満洲白系ロシア人事務局資料の調査を行った。

平成29年度は、2017年8月24日から9月5日にかけて阪本秀昭、生田美智子、伊賀上菜穂がオーストラリアのシドニーとメルボルンを訪問し、満洲出身の亡命古儀式派教徒の調査を行った。教会周辺で満洲出身者に対し聞き取り調査を行うとともに、自宅も訪問し、その生活に

ついても参観する機会を得た。

平成30年度の共同調査としては、2019年2月10日から12日に高橋沙奈美がウクライナ科学アカデミーのセルギー・タラネツ氏とウクライナ、ウィーンヌィチャ市内の古儀式派教会にて、ウクライナ正教会の合同に関する古儀式派の態度について、聖職者への聞き取り調査を行った。

(2) 学会・研究会の開催と参加

平成28年度は、2016年5月28日(土)に北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターにて「第5回古儀式派研究会研究集会」を開催して研究構成員の大半が参加した。S・タラネツ(キエフ)、E・ヴァシリエヴァ(ウラジオストク)両氏など海外からの出席者も得た。塚田力、豊川浩一、タラネツ、ヴァシリエヴァが研究発表を行い、年度の方針について検討した。

平成29年度は、2017年5月27日、28日に富山大学五福キャンパスにて「第6回古儀式派研究会研究集会」を開催し、ロシア、ラトヴィアなど海外参加者6名を含め研究構成員の大半が参加した。海外共同研究者のポヌイルコ氏の講演、福嶋千穂、下斗米伸夫が研究発表を行い、阪本秀昭、塚田力が前年度に行った海外調査の報告を行った。また、年度の方針についても検討した。

さらに、2017年6月2日には大阪大学豊中キャンパスにて「古儀式派研究会大阪大学研究会」を開催し、ポヌイルコ氏等海外からの参加者が発表を行った。

個別の学会発表としては、中澤敦夫がペテルブルグ市が運営する「ドミートリイ・リハチョフ賞」を受賞したことをきっかけにペテルブルグを訪問し、2017年11月26日に授賞式、27日に記念講演を行い、28日~30日にはモスクワにて古儀式派に関する資料調査を行った。

高橋沙奈美は、2017年6月3日にソウルの中央大学校(Chung-ang university)での学会8th East Asian Conference for Slavic Eurasian Studiesにて報告を行った。福嶋千穂は、2018年2月10日に東京大学での国際シンポジウムにて報告を行った。豊川浩一、塚田力は2017年10月5、6日のラトヴィア共和国リガ市での第5回ザヴォロコ記念研究会にて報告を行った。

平成30年度には、2018年5月26、27日に電気通信大学で「第7回古儀式派研究会研究集会」を開催し、アレクサンドル・ピーギン氏(ペテルブルグ)、ユリア・アルグジャエヴァ氏(ウラジオストク)の海外研究者の参加を得て、研究者の交流・情報交換を行うことができた。また、6月2日には同志社大学研究集会が開かれ、阪本秀昭、ピーギン等が報告を行った。

下斗米伸夫は、2018年12月20日にモスクワのMGIMO(モスクワ国際関係大学)のロシア日本研究者協会総会で研究成果を報告した。

さらに、伊賀上菜穂が中心となって2019年2月14日に東洋文庫にて研究会「現代ロシアにおける信仰の諸相：ロシア正教古儀式派とチベット仏教の場合」を開催し、古儀式派研究については、モスクワ大学から招聘したナタリヤ・リトヴィナ氏が「20世紀後半から現代におけるロシア正教古儀式派共同体の変容：ウラル地方と極東地方の共同体の比較」と題する講演を行った。

(3) 古儀式派研究の普及活動

研究計画に挙げたロシア古儀式派についての概説書出版については、2016年5月の研究集会で執筆分担が提案され、2017年、2018年の研究集会でそれぞれ執筆状況を確認した。そして、最終年度にあたる平成30年度に、これまでの共同研究の総決算として、阪本秀昭・中澤敦夫編著『ロシア正教古儀式派の歴史と文化』(明石書店、2019年1月)を刊行することができた。

本書は、ロシア古儀式派を歴史、社会、文化などの諸側面において多面的に紹介した、日本で初めての一般読者向けの概括的文献であり、共同研究の特色を生かした成果である。

本書の刊行とその内容を海外で宣伝するために、2019年3月20日に中澤敦夫がペテルブルグのロシア文学研究所にて、3月25日には中澤と宮崎衣澄がモスクワの在外ロシア人会館にて、本書のプレゼンテーションを開催した。ペテルブルグでは約20名、モスクワでは約60名の研究者、古儀式派信徒たちの参加を得た。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計9件)

豊川浩一 The Strategy of I.K. Kirilov toward the South-East Russia, Cross-Cultural Studies: Education and Science, Vol. 3, Issue II, June 2018. pp. 7-20. 査読無

望月哲男 Вокруг дискуссий о церковном суде в «Братьях Карамазовых». Mundo Eslavo, 16, 2017. pp.172-182. 査読有

伊賀上菜穂 「南シベリアの古儀式派教徒・セメイスキーの100年：パルチザン、宗教弾圧、「社会主義労働英雄」、そしてツーリズム」『アリーナ』20号、2017年、284-298. 査読無

宮崎衣澄 「ロシア革命と古儀式派 - モスクワ・ロゴシスコエ古儀式派共同体を中心に」『アリーナ』20号、2017年、273-283. 査読無

豊川浩一 「18世紀のロシアにおける民衆と宗教ーピョートル一世の教会改革と古儀式派教徒」『駿台史学』162号、2017年、67-100、査読無

阪本秀昭「古儀式派教徒の信仰と生活 - 西ウクライナとロシア極東の比較 - 』『アリーナ』
20号、2017年、253-272. 査読無
阪本秀昭「正教古儀式派の禁欲主義と勤労原理に関する考察 - ユダヤ教およびプロテス
タンティズムとの比較から』『アリーナ』20号、2017年、210-251。
塚田力 Участие в войнах русских старообрядцев в округе Алтай (Синьцзян-Уйгурский
автономный район КНР) // Международные Заволокинские чтения. Сборник 4. Рига,
2016, 520-530. 査読無
下斗米伸夫 「労働組合論争再論—古儀式派とソビエト体制の角度から (前半)」『法学志
林』第2号、2016、1-52. 査読無

〔学会発表〕(計6) 他開催の学会のみ

下斗米伸夫 Transformation Revised: “Revolution of Raskol’nikov?” or the Origin and
Development of the Soviet State (1905-1921) // モスクワの MGIMO (モスクワ国際関係大学)
ロシア日本研究者協会総会報告、2018年12月
高橋沙奈美 A Forgotten Page of the Revolution: Taboo and Commemoration of the Tsareubiistvo
(regicide) // the 8th East Asian Conference for Slavic Eurasian Studies “Conflict and Harmony
in Eurasia in the 21 Century, Chung-ang university, Seoul, Korea, 2017
福嶋千穂 Consideration to the Influence of Religious Tolerance (Toleration) of 1905 on Former
Uniates // Protecting the Empire: Imperial Government and Russian Nationalist Alliance in the
Western Borderlands during the Late Imperial Period 東京大学, 2017
福嶋千穂 The Image of the Polish-Lithuanian Commonwealth in History Education at Higher
Education Institutions in Japan // The III Congress of International Researchers of Polish History ヤ
ギェロン大学 (クラクフ), 2017
豊川浩一 Старообрядчество в народных движениях в России в XVIII в.: на основе изучения
восстания Пугачева. Научно-практическая конференция. Пятые международные
Заволокинские чтения. Рига, 5-8 октября 2017 г.
伊賀上菜穂 Литературные образы русских старообрядцев-беспоповцев Северной
Маньчжурии в произведениях японских писателей (середина XX – начало XXI вв.). Пятые
международные Заблокинские чтения. Латвия, г. Рига, 5-8 октября 2017.

〔図書〕(計4件)

阪本秀昭・中澤敦夫編著『ロシア正教古儀式派の歴史と文化』、明石書店、2019年、458頁。
下斗米伸夫『神と革命：ロシア革命の知られざる真実』、筑摩書房、2017年、382頁。
豊川浩一『18世紀ロシアの「探検」と変容する空間認識 キリーロフのオレンブルク遠征
とヤーロフ事件』、山川出版社、2016年、327頁
下斗米伸夫編著『ロシアの歴史を知る 60章 (エリア・スタディーズ 152)』、明石書店、2016
年、400頁。

〔産業財産権〕

- 出願状況 (計0件)
- 取得状況 (計0件)

〔その他〕

ホームページ等
古儀式派研究会 <http://yaais.jp>
共同研究の活動の場である古儀式派研究会のホームページ

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：伊賀上 菜穂
ローマ字氏名： IGAUE Naho
所属研究機関名：中央大学
部局名：・総合政策学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：10346140

研究分担者氏名：三浦 清美

ローマ字氏名： MIURA Kiyoharu
所属研究機関名：電気通信大学
部局名：情報理工学域
職名：教授
研究者番号(8桁)：20272750

研究分担者氏名：豊川 浩一
ローマ字氏名： TOYOKAWA Koichi
所属研究機関名：明治大学
部局名：文学部
職名：専任教授
研究者番号(8桁)：30172208

研究分担者氏名：高橋 沙奈美
ローマ字氏名： TAKAHASHI Sanami
所属研究機関名：北海道大学
部局名：スラブ・ユーラシア研究センター
職名：助教
研究者番号(8桁)：50724465

研究分担者氏名：福嶋 千穂
ローマ字氏名： FUKUSHIMA Chiho
所属研究機関名：東京外国語大学
部局名：大学院総合国際学研究院
職名：講師
研究者番号(8桁)：50735850

研究分担者氏名：宮崎 衣澄
ローマ字氏名： MIYAZAKI Izumi
所属研究機関名：富山高等専門学校
部局名：その他部局等
職名：准教授
研究者番号(8桁)：70369966

研究分担者氏名：下斗米 伸夫
ローマ字氏名： SHIMOTOMAI Nobuo
所属研究機関名：法政大学
部局名：法学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：80112986

研究分担者氏名：望月 哲男
ローマ字氏名： MOCHIZUKI Tetsuo
所属研究機関名：中央学院大学
部局名：現代教養学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：90166330

(2)研究協力者

研究協力者氏名：中村 喜和
ローマ字氏名： NAKAMURA Yoshikazu

研究協力者氏名：阪本 秀昭
ローマ字氏名： SAKAMOTO Hideaki

研究協力者氏名：生田 美智子
ローマ字氏名： IKUTA Michiko

研究協力者氏名：塚田 力

ローマ字氏名： TSUKADA Tsutomu

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。